

■令和6年度版『ひろがる言葉 小学国語』2年 年間指導計画・評価計画(案)

〔第1学年及び第2学年〕目標(「学びに向かう力、人間性等」の単元目標)

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
 - (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
 - (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
- 「学習内容」…△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	4月	2 (話す聞く2)	こえの大きさをかながえてはなそう すごろくトーク 教科書:P8 ◇いろいろな場面で、話す声の大きさを考えて、 気をつけて話すことの大切さに気づく。 ☆学習用語:声の大きさ／伝える／相手／声の ものさし	話聞	1	〈見通しをもとう〉 1. 教材名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 * すごろくトークをするという学習の見通しをもって、学習計画を立てる。 * 黒板に「こえのものさし」の拡大したものを掲示する。 2. P8の「保健室での報告」「班の話し合い」「運動会の応援」「みんなの前で発表」の各場面について、「こえのものさし」のどこに該当するか考える。 * 声の大きさの例を示す。 * 学校生活での経験を思い起こさせ、そのときの声の大きさに背景や理由があることを考えさせる。 * 場面や相手の数に合わせた声の大きさを話すことの必要性に気づかせる。 3. ちょうどよい声の大きさを考えて、話す。 * 実際に話しながら、「ものさし」の数値と実際の声の大きさを実感的に捉えさせる。 * 日常生活の場を意識させる。 * 相手の人数に合わせた大きさを話すときの声について、話すグループと観察するグループに分けて、話し手どうしの感覚や、聞いた時の感覚を実感的に比べさせるとよい。	【知識・技能】 ◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A1)ウ 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A2)ア 【態度】 ・すすんで伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫し、今までの学習を生かしてすごろくトークをしようとしている。
					2	4. すごろくトークをする。 (1)止まったまですの言葉を声に出して読み、「」の言葉を言う。 * 「こえのものさし」を意識させる。 (2)ちょうどよい声の大きさを友達と一緒に考え、すごろくトークをする。 * ただすごろくを楽しむのではなく、5段階の声の大きさ(「0」を含む)のうち、「0」の声は教室移動のとき、「4」の声は体育館で発表するときなど、空間の広さや周りの状況でも変わること、変えることを意識させ、いろいろな声で楽しませる。 〈ふりかえろう〉 5. 学習を振り返る。 * 学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめさせる。 * 全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。	
1学期	4月	4 (書く4)	きょうのできごとを書きとめよう つづけてみよう——日記 教科書:P10 ■毎日の生活を振り返り、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、日記を書く。 ☆学習用語:日記／日記のたね	書く	1	1. 教材文を読み、日記がどのようなものか、日記には何を書けばいいのかわかり、学習の見通しをもつ。 * 基本的には、毎日の生活を振り返って書くものということをおさえる。実際には、その日のことにこだわらず書かせたり、幾つかの話題から選択させて書かせたりしてもよい。 2. 日記が他の作文と似ているところや違うところを話し合う。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア 【言語活動例】 ・日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。(B2)イ 【態度】 ・積極的に、経験したことや思ったことなどから書くことを見つけようとし、学習課題にそって、日記を書いて友達と読み合おうとしている。
					2	3. 共通体験をもとに、日記に書く材料を集めて日記を書いてみる。 * P11「日記のたね」を参考に、書きたいことを集め、選ぶ。 * 「見たこと・聞いたこと・したこと・感じたこと」なども視点となる。 * 一緒に遊ぶ時間をつくり、題材を集める。ペアやグループで遊んだことを想起し、対話する時間をとってもよい。	
					3	4. 一人一人が「日記のたね」を集める。 5. 日記を書く。 * 教材文を参考に、日付・曜日・天気なども書くようにする。 * 「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「気持ち」「会話」など前学年での学習を想起しながら書くことよい。 * 書いたものは読み返し、まちがいがいかないか確認する。	
					4	6. 書いた日記を読み合い、交流する。 * 友達の書いた日記のよさをあげさせる。 * 読んだ感想などを得られる場面が設定できるとよい。 7. 日記のよさを話し合う。 8. 日記を書くときに気をつけることや題材の見つけ方などについて振り返る。	
1学期	4月	2	たのしくこえに出してよう ちいさいおおい 教科書:P12 口体を動かしたり、声の大きさを工夫しながら、 楽しく読む。	読む	1	1. 教材名やイラストを見て、学習の見通しをもつ。 2. 詩に添えられたイラストを見て、気づいたことを発表する。 * まずイラストをゆっくりと見る時間をとって、イメージを膨らませるとよい。 3. 詩を音読する。 * まず、教師がいきいきと音読して見せることで、児童の緊張感を解くことができる。声の大きさや動きの工夫の例をモデルとして示せるとよい。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・すすんで言葉の響きなどに気をつけて音読し、学習課題にそって場面の様子や登場人物の行動を想像しようとしている。
					2	4. 四人程度のグループで音読・表現の仕方を話し合い、発表会を開く。 * 動作化を多く取り入れることよいことを助言する。 * 詩の中に登場する生き物のセリフを考えさせてもよい。 * 個人のアイデアをグループの中で持ち寄ることで、活発な雰囲気が生まれる。 * ささまざまな動きをつけているグループを認め、停滞しているグループに例を示し、参考にするように助言する。 5. 学習の振り返りをする。	

1学期	4月	12 (話す聞く1)	<p>一 どうしよう人物の した ことに 気をつけて 読もう</p> <p>はるねこ</p> <p>教科書:P16</p> <p>口場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、音読する。</p> <p>★ここが大事:どうしよう人物</p> <p>☆学習用語:登場人物/様子/場面/音読</p>	読む	1	<p>〈見通しをもとう〉</p> <p>1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p>(1)単元扉を読む。</p> <p>(2)範読を聞き、登場人物や、大体のできごとを確かめ、感想をもつ。</p> <p>* 二年生になって初めての物語文である。挿絵を提示しながら、物語の大体を捉えるようにしたい。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)</p> <p>【態度】</p> <p>・すすんで場面や登場人物の様子を捉え、学習課題にそって音読を聞き合ったり、考えたことを伝え合ったりしようとしている。</p>
					2~4	<p>〈たしかめよう〉</p> <p>2. できごとや、人物のしたこと、場面の様子確かめる。</p> <p>(1)手紙の文章を読み、手紙と巾着袋が誰から届いたものなのか、いつのできごとについての手紙なのか確かめる。</p> <p>* 「いつのできごと」については、「きょねんは」「きょねんの今ごろ」「……そんなことが、一年まえにあったのです」という時を表す言葉に着目できるようにする。</p> <p>(2)困っていたはるねこに、あやがしたことを見つけ、表にまとめる。</p> <p>(3)その時の場面の様子を見つ、表にまとめる。</p> <p>* はるねこが何に困っていたのかを確認し、そのはるねこに対してあやがしたことを見つける。</p>	
					5~7	<p>〈くわしくよう〉</p> <p>3. 登場人物の様子がわかるように音読する。</p> <p>(1)〈たしかめよう〉で確認したことをもとに、好きな場面を選んで、登場人物の様子がわかるように音読の練習をする。</p> <p>(2)音読を聞き合い、どのような様子が伝わってくるかなど、感想を伝える。</p> <p>* なぜそのような読み方にしたのか問い返したり、聞いていた側にもどのような様子が伝わってきたかきいたりする。</p>	
					8・9	<p>〈まとめよう〉</p> <p>4. 物語の中に出てくるものから考える。</p> <p>(1)はるねこから届いた巾着袋の中身はどのようなものだったか確かめる。</p> <p>(2)どんな種が入っていたらうれしいか、その種のいいところとあわせて考える。</p> <p>* はるねこからの手紙と巾着袋が届いたときのあやの様子を考え、「うれしい」という言葉を引き出したい。そこから、どんな種が入っていたらうれしいか、自分で考えるようにする。</p>	
					10・11	<p>〈つたえあおう〉</p> <p>5. 友達と伝え合い、それぞれの考えのおもしろいところを見つめる。</p> <p>(1)考えたことを友達と伝え合う。</p> <p>(2)友達の考えを聞いて、おもしろいと思ったところを見つめる。</p>	
					12	<p>〈ふりかえろう〉</p> <p>6. 「ここが大事」を確認し、「ふりかえろう」の観点にそって振り返りを行う。</p> <p>(1)登場人物の様子を考えると、どのようなことに気がつけたかを書き、発表する。</p> <p>(2)友達の考えを聞いて、おもしろいと思ったところはどんなところだったかを書き、発表する。</p>	
1学期	5月	3 (話す聞く3)	<p>大事な ことを おとさずに 聞こう</p> <p>ひろい 公園</p> <p>教科書:P32</p> <p>◇質問を落とさないように聞き、絵から答えを探す。</p> <p>★ここが 大事:大事な ことを おとさずに 聞く</p> <p>☆学習用語:質問/様子/言葉/いつ/どこ/どんな/だれ/何</p>	話聞	1	<p>〈見通しを もとう〉</p> <p>1. 教材名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。</p> <p>(1)公園の絵を見ながら質問を聞くという学習の見通しをもつ。</p> <p>* 公園の絵を見ながら、気づいたことを自由に話す時間をとり、活動に対する児童の興味や意欲を引き出す。</p> <p>2. 質問を聞いて、絵から答えを探す。</p> <p>(1)教科書に描かれた、広い公園の絵を見ながら、質問を聞く。</p> <p>(2)質問の内容を確かめ、答えを話し合う。</p> <p>* 質問に答える際に大事にしたことを確認する。</p> <p>* P35「ここが 大事」を確認する。</p> <p>(3)絵を見て、同じような質問を作り、聞き合う。</p> <p>* 適宜、「ここが 大事」を確認するとよい。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ</p> <p>◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。(A(2)イ)</p> <p>【態度】</p> <p>・すすんで話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、今までの学習を生かして、伝言クイズをしようとしている。</p>
					2	<p>3. 伝言クイズをする。</p> <p>(1)絵の中の様子を教師が伝え、伝言クイズをする。</p> <p>* 絵からわかることを、人物・服装・持ち物・動き・関係等の観点からクイズにするようにする。</p> <p>(2)最後の人に伝言が伝わったら、伝言の内容と答えをグループで確かめる。</p> <p>(3)絵の中の様子を言葉にして、クイズを出したり答えたりする。</p> <p>* 適宜、「ここが 大事」を確認するとよい。</p>	
					3	<p>4. P36「書くと 同じでも、読むと ちがう 言葉」を読み、アクセントの違う言葉を集め、文を作って比べ合う。</p> <p>〈ふりかえろう〉</p> <p>5. 学習を振り返る。</p> <p>* 学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を交流する。</p> <p>* 大事なことを落とさずに聞くために、どんなことに気がつけたかを振り返らせる。</p>	
1学期	5月	1	<p>言葉の 文化①</p> <p>回文を たのしもう</p> <p>教科書:P37</p> <p>△回文の意味を知り、楽しみながら回文を読む。</p> <p>☆学習用語:回文</p>	文化	1	<p>1. 教材文を読み、知っている回文を発表する。</p> <p>* 回文の意味を理解させる。</p> <p>2. 教科書の回文を声に出して読む。</p> <p>* 教師の読み声に合わせて上から読んだり、下から読んだりして、回文になっていることを確かめる。</p> <p>3. 回文を作る。</p> <p>* オリジナルの回文を作り、紹介し合う。</p> <p>* 作った回文を学級で声に出して楽しむ。</p> <p>4. 学習を振り返る。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3)イ)</p> <p>【態度】</p> <p>・長く親しまれている言葉遊びをとおして、すすんで言葉の豊かさに気づこうとし、学習の見通しをもって回文を楽しみながら読もうとしている。</p>

1学期	5月	2	漢字の ひろば① 画と書きじゆん 教科書:P38 △漢字の画と筆順について理解し、正しく書く。 ☆学習用語:画/画数/書き順(筆順)	漢字	1 2	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 2. 「正」の字で数を数えた経験を話し合う。 *なぜ「正」の字を使うか、画数に意識を向けさせる。 3. 「土」「日」の字は、それぞれ何画で書くのかを考える。 *板書では、一画めから三画めまでを色分けするとよい。 4. 漢字の画や画数の意味を知り、「山」「女」などの画数と、それぞれの画めがどこかを話し合う。 *「女」「右」「馬」などに重点をおくようにする。 5. これまでに学んだ漢字をもとに、画数についての問題を作り、互いに答え合う。 6. 筆順の三つの原則について、考える。 7. 「とくべつな 書きじゆん」があることも、理解する。 8. 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って正しく漢字を書く。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で担当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ) 【態度】 ・積極的に漢字の筆順を理解し、学習課題にそって、正しい筆順で漢字を書こうとしている。
1学期	5月	2 (書く2)	一年生で学んだ漢字① 教科書:P40 △絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	9. 絵の中の言葉として示されている漢字の読み方を確認し、一年生の時の一年間のできごとを振り返る。 *絵の中にある一年生の時に学んだ漢字の読み方を再確認する。 10. 教科書の絵と言葉を参考に短文を作り、句読点の打ち方に気をつけて書く。 *語と語を適切につなぎ、句読点の打ち方に気をつけて文を書くようにはたらきかける。主語のあと、従属節のあと、並列する語のあとなど必要な箇所、適切に読点を打つことを理解させるようにする。 11. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で担当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア) 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2)ア) 【態度】 ・積極的に前学年で担当されている漢字を書き、今までの学習を生かし、必要な事柄を集めたり確かめたりして文を書こうとしている。
1学期	5月	13 (書く3)	二じゆんじよに 気をつけて、つながりを かんがえよう すみれと あり 教科書:P42 □ありとの関わりにつなげながら、すみれが仲間を増やす仕組みについて説明した文章を読む。 ★ここが大事:「何が——どうする」に気をつけて読む ☆学習用語:順序/つながり/題名	読む	1 2~4 5~9 10・11 12・13	〈見直しをもとう〉 1. 単元名やいざないの言葉を読み、学習の見直しをもつ。 2. すみれやありを、これまでどのような場所で見たことがあるかを想起する。 〈たしかめよう〉 3. 題名や写真から、どんなことが書かれた文章なのかを予想し、考えたことをペアで伝え合う。 4. 本文に書かれた内容の大体を確認する。 5. すみれについて書かれたところと、ありについて書かれたところを見分ける。 〈くわしくよう〉 6. すみれとありに、どのようなつながりがあるのかをまとめていくことを確認する。 (1)第④～⑥段落までの、すみれが花をつけてから、種が地面に落ちていくまでの流れを「→」などの記号を使って整理する。 *「ステップチャート」や「マトリックス」などの思考ツールを使用するとよい。 (2)第⑦～⑨段落までの、ありが地面に落ちたすみれの種を巣に持ち帰り、捨てるまでの流れを「→」などの記号を使って整理する。 *あり側の利点を整理したあとに、すみれ側の利点が何かについて目を向けさせ、次時に改めて整理するきっかけがつかめるとよい。 〈まとめよう〉 7. すみれとありのつながりを説明する文章を書く。 *第⑩・⑪段落の文章の中で、書き手が伝えたいことは何かを考えながら大事な語や文を選ばせる。 *「すみれは」から始まる文、「ありは」から始まる文、「すみれとありは」から始まる文を考えて書かせるとよい。 〈つたえあおう〉 8. 前時に書いた文章を友達と読み合い、考えを共有する。 *ペアを作り、文章を互いに読み合わせる。 〈ふりかえろう〉 9. 学習を振り返る。 *すみれとありについて考えたことを交流させる。	【知識・技能】 ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)力) ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ) ◎「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C1)ア) ◎「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選り出している。(C1)ウ) 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2)ア) ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C2)ア) 【態度】 ・すすんで時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習課題にそって考えたことを文章にまとめようとしている。

1学期	6月	4 (書く4)	<p>わかりやすくしろくしよう かんさつ発見カード 教科書:P50</p> <p>■観察して同じところや違うところを見つけ、考えが明確になるように事柄の順序にそって簡単な構成を考え、「かんさつ発見カード」を書く。</p> <p>☆学習用語:観察/発見/観察のポイント/メモ/文章/最初/次に/最後に/横書き/算用数字</p>	書く	1	<p>〈見通しをもつ〉</p> <p>1. 植物や生き物の様子をよく見て、「かんさつ発見カード」に書く学習活動の見通しをもつ。 * ここで「観察」「発見」の意味をおさえておく。よく見て新しく気づいたことを書くという学習の目的をつかませるためなので、厳密に区別する必要はない。</p> <p>2. 生活科の学習で継続して観察している動植物などから、書く対象を決める。</p> <p>3. 観察して気づいたことをメモに書き出す。 * 生活科と連携し、実際に見てメモを書くようにしたい。 * P50「かんさつのポイント」を意識させるようにする。 * P51「大事な言い方」も確認し、メモを書く際に活用させる。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ)</p> <p>◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア)</p> <p>◎「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B1)イ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2)ア)</p>	
					2・3	<p>4. P51のふきだしを参考にし、書く順番を決める。 * ふきだしでは「さいしょに」「つぎに」「さいごに」という言葉を使って書く順番を考えさせるようにしている。 * P52の例文と「かんさつメモ」を見比べて、「かんさつメモ」のどの内容がどこに書かれているのかを確認する。同じ内容をまとめて書いていることを確認し、自分の「かんさつメモ」を見て、書く順番を考えさせる。</p> <p>5. P53「横書きの書き方」を読んで、横書きのきまりを知る。 * 「かんさつ発見カード」を書くときに生かすようにする。</p> <p>6. 「かんさつメモ」をもとに「かんさつ発見カード」を書く。 * 例文を読んで、どのような順番で書かれているのか、どこに「大事な言い方」が使われているのかを意識させる。 * 「どこがかわったか」「くわしい様子」「思ったこと」という観点を手がかりにすると書きやすい。</p>		<p>【態度】</p> <p>・発見したことをもとに、事柄の順序にそって簡単な構成を積極的に考え、学習課題にそって、「かんさつ発見カード」を書くようにしている。</p>
					4	<p>7. 「かんさつ発見カード」を読み返し、まちがいや書き落としたことがないか確かめる。</p> <p>8. 友達と「かんさつ発見カード」を読み合い、発見の内容や書き方のよさなどの感想を伝え合う。 * 感想を付箋紙などに書いて伝えたり、家の人に読んでもらい感想を書いてもらったりするなどの工夫ができる。</p> <p>〈ふり返ろう〉</p> <p>9. どんなことに気をつけて「かんさつ発見カード」を書いたのか、めあてにそって振り返る。</p>		
1学期	6月	1	<p>言葉の文化② むかしのうたを 読もう 教科書:P54</p> <p>△平仮名四十七文字を全て使った歌や数字が歌詞に組み込まれた遊び歌があることを知り、音読する。</p> <p>☆学習用語:いろはうた/かな</p>	文化	1	<p>1. 学習の見通しをもつ。</p> <p>2. 「いろは歌」が、平仮名四十七文字を一回ずつ使って作られていることを確かめ、声に出して五七五のリズムのよさを楽しみながら読む。 * 「ゐ」「ゑ」以外はかな表記通りの音でもかまわない。 * 教師と一緒に声に出して読ませ、リズムを確かめる。七音五音の組み合わせに気づかせる。</p> <p>3. 数え歌やその他の遊び歌を知り、遊びながら読んだり歌ったりする。 * P144「2年生で読みたい本①」の『ことばあそびうた』を例に、言葉遊びの本を紹介したい。</p> <p>4. 学習を振り返る。 * 家の人や身近な大人に聞いて、集めたり教わったりさせてもよい。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク)</p> <p>◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3)イ)</p> <p>【態度】</p> <p>・長く親しまれている言葉遊びをとおして、すすんで言葉の豊かさを確かめようとし、学習の見通しをもって音読しようとしている。</p>	
1学期	6月	3	<p>言葉のひろば① かたかなで 書く 言葉 教科書:P56</p> <p>△片仮名で書く言葉の種類を知り、正しく使い分ける。</p>	言語	1	<p>1. 学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 * 教材冒頭の会話文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。</p> <p>2. 学校内と学校外で、片仮名で書く言葉を探し、片仮名で書く言葉の種類を考える。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p> <p>【態度】</p> <p>・積極的に片仮名で書く語の種類を知ろうとし、今までの学習を生かして文を書くようにしている。</p>	
		2	<p>3. 片仮名で書く言葉の種類を知り、仲間分けを考える。 * 言葉の中には、片仮名で表記するものがあり、それらは幾つかの種類に分けることができることに気づかせる。 * 絵を見て片仮名の言葉を探し、仲間分けをする。 * 仲間分けを確認しながら、片仮名の濁音と半濁音、長音や拗音の読み方や書き方を教師が示しながら指導をする。また、似た字形やまちがえやすい字形も確認しておくようにする。</p>					
		3	<p>4. P57下段の絵から、片仮名で書く言葉を使った文を作り発表する。 * 自分で文を作らせ、片仮名で書く言葉を確認する。 * 絵で表現されているもの以外にも、関連して他の言葉も示していくと、学習を広げていくことができる。 * 絵以外のことで、身のまわりにある片仮名で書く言葉を使って、文を作る。</p> <p>5. 学習したことを振り返る。</p>					

1学期	6月	2	読書の ひろば① 本で しらべよう 教科書:P58 △図書館で本を探す方法を知り、本を探して読む。 ☆学習用語:目次/司書	読書	1	1. 図書館で本を探す方法を知り、目的の本を探す。 (1)図書館でできることを話し合う。 * 本の貸し出し、読書の場所だけでなく、疑問に思ったことを調べられる場所であることに気づかせる。 (2) P58・59の挿絵や自校の図書館を見て、本を探す方法を話し合う。 * 学校図書館で学習するとよい。事前に配架の仕方、図書館マップ、案内標示等を確認しておく。 * 本を探す方法として、学校司書にきく、図書館マップ、書架の案内標示、書名や目次を見るなどがある。 (3)書架から目的の本を探す。	【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3エ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C1)ウ) 【言語活動例】 ・学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。(C2ウ)
					2	2. 自分が調べたいテーマの本を探して、読む。 (1)調べるテーマを決める。 * テーマは問いの形にしてもよい。具体的な問いを立てると、本を探しやすく、問いをもって読み進められる。 (2)本を探して、読む。 (3)読んでわかったことをノートに書く。 * わかったことを文章で書かせてもよい。 * 使った本の書名、著者名は、必ず書く習慣をつけさせる。	【態度】 ・積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を探し、いろいろな本があることを知ろうとしている。
1学期	6月	6 (書く6)	三本でしらべてしようかいしよう 「生きものクイズ」でしらせよう 教科書:P62 ■経験したことや本で調べたことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする。 ★ここが大事:しりたい ことを しらべ、クイズを作る ☆学習用語:クイズ/内容/目次/問題/答え/説明	書く	1	〈見通しを もとう〉 1. 身のまわりの生き物について調べ、「生きものクイズ」を作って友達に知らせるとい学習活動について見通す。 * 生き物の本を紹介したり、クイズの本を使って実際にクイズを楽しんでみたりして、興味・関心をもてるようにする。	【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア)
					2	〈きめよう・あつめよう〉 2. クイズにしたい生き物を決め、詳しく調べる。 * 図書資料の目次や索引が活用できることを伝えておく。 ・目次:大体の内容を把握したり、目的のページをすぐに開いたりすることができる。また、クイズにつながる特集ページやコラムのような囲み記事のあるページも把握しやすい。 ・索引:調べたい「生き物名」から必要なページを探せる。 3. クイズにしたい内容をメモに書く。 * みんながあまり知らないようなこと、答えを聞くと驚いたり感心したりするような内容がクイズに適していることを伝え、「ここがすごい!」という観点を提示する。	【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2)ア) 【態度】 ・積極的にクイズにしたい生き物について調べたり必要な事柄を集めたりして、学習課題にそって、伝えたいことが明確になるように「生きものクイズカード」を書こうとしている。
					3・4	〈くみ立てよう・書こう〉 4. 「生きものクイズカード」を書く。 * 問題と答えは、簡潔な文で対応させて書くようにさせる。 * 例示を見て「三択クイズ」の形式を確かめる。 * 答えのあとに詳しく「せつめい」(P64ふきだし参照)を書くことで、楽しいクイズになることをおさえる。 〈読みかえそう〉 5. 作ったクイズを読み返す。 * 問いと答えが対応しているか確認させるようにする。	
		5・6	〈つたえあおう〉 6. 「生きものクイズカード」を使って、クイズを読み合う。 * ペア、グループで読み合ったり、タブレット端末を活用して全体で共有したりするなど工夫して、楽しむ。 〈ふりかえろう〉 7. 学習を振り返る。				
1学期	6月	2	漢字の ひろば② なかまの 言葉と 漢字 教科書:P66 △意味をもとに仲間に分けた漢字について理解する。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 * 「なかまの言葉」について知るとい学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 2. 「朝・昼・夜」がどんなまとまりの言葉かを話し合う。 * 「朝」「昼」「夜」の漢字から、「時を表す言葉」であることを理解できるようにする。 3. 「家族を表す言葉」について考える。 * 挿絵を参考に、左側が女性、右側が男性を、上段からおおよその年齢順になっていることを理解させたい。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって、言葉には意味による語句のまとまりがあることを知ろうとしている。
					2	4. どんな仲間の言葉かを考える。 5. 意味のつながりのある言葉や漢字を身のまわりから探して、ノートに書き、発表し合う。 * (例)「目・耳・口・手・足」「はれ・雨・くもり」「日・月・星」「犬・馬」など。 6. 反対の意味の漢字を確かめ、あてはめる。 * P118『はんたいのいみの言葉、にたいみの言葉』(P150『言葉の木』)の学習に結びつくようにしておく。 7. 学習したことを振り返る。 * これからの学習でも、仲間の言葉、反対の意味の言葉などにまとめる習慣がもてるといことをおさえる。	

1学期	6月	2	<p>言葉のひろば② 「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう 教科書:P68</p> <p>△言葉が体系性をもって存在していることに気づき、上位語・下位語の概念に基づいて、言葉を探したりまとめたりする。</p>	言語	<p>1 1. 言葉が仲間ごとにまとめられるということを知り、学習活動に対する見通しをもつ。 * P68の下段を読み、「だいこん・にんじん・じゃがいも」は「やさい」という仲間(上位概念)でまとめて言うことができ、「りんご」は「くだもの」の仲間に含まれる下位概念であることを理解させる。 2. 「言葉のなかまさがしゲーム」を行うための準備をする。 * P69の上段を読み、まずは学級全体で仲間ごとにどのような言葉があるのか集めてみる。 * グループに分かれ、教科書に示されているもの以外の「なかま」を設定し、それに合わせて言葉を集めてみる。 * ある程度言葉を集めたら、それが設定した「なかま」に含まれるかどうかを各グループで確かめさせる。</p> <p>2 3. P70の上段を読み、前時に集めた言葉を用いて「言葉のなかまさがしゲーム」の問題作りを行う。 * グループで集めた言葉の仲間から幾つかを選ばせ、そこに別の仲間の言葉を交えて問題を作らせる。 4. 別のグループの友達と一緒に「言葉のなかまさがしゲーム」を行う。 * 別のグループの児童と二人で組みになって問題を出し合う。 5. 学習したことを振り返る。 * 上位概念を理解させる場合には、「まとめていう」という言い方をするとわかりやすいということを理解させる。 * 下位概念を理解させる場合には、「細かく分けていう」という言い方をするとわかりやすいということを理解させる。</p>	<p>【知識・技能】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。(1)オ ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</p> <p>【態度】 ・積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づこうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。</p>
1学期	7月	15 (書く3)	<p>四 くりかえしに 気をつけて、とうじょう人物の様子を 読もう きつねの おきやくさま 教科書:P72</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつ。</p> <p>★ここが大事:くりかえしの ある お話を 読む</p> <p>☆学習用語:場面／登場人物／繰り返し／順序／わけ</p>	読む	<p>1 <見通しをもとう> 1. 単元扉を見て、単元の見通しをもつ。 2. 範読または児童の音読により、全体を通読する。 3. 新出漢字の確認と練習をする。</p> <p>2・3 <たしかめよう> 4. P84「たしかめよう」の①②③の順序で、お話が繰り返されていることを確かめる。</p> <p>4～9 <くわしくよう> 5. 以下のそれぞれの場面のきつねの思いを想像し、場面の様子や登場人物の行動を具体的に読み取る。 (1) ひよこ、あひる、うさぎに、「〇〇お兄ちゃん」と言われた時。 (2) 「いや、まだ いるぞ。きつねが いるぞ。」と言って、飛び出した時。 (3) 「はずかしそうに わらって しんだ」時。 * 挿絵も参考にしながら、きつねの考えたことを想像し、ノートに考えを書いてから交流させる。 * きつねの思いを想像させる際に、どの叙述からそう考えたかという理由を交えて発表させるようにする。 * 挿絵に、ふきだしを使ってきつねの考えたことを書かせたり、ペープサートを利用させたりするのもよい。</p> <p>10～12 <まとめよう> 6. きつねの性格について本文をもとに考える。 * きつねの性格は複数出てくることが考えられる。それぞれが文章表現のどこを手がかりにして考えたのかを、はっきりと示すことができるようにさせたい。</p> <p>13～15 <つたえあおう> 7. 「まとめよう」で考えたきつねの性格をノートにまとめ、友達と紹介し合う。</p> <p><ふりかえろう> 8. 学習を振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもっている。(C1)オ</p> <p>【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ</p> <p>【態度】 ・音読をとおして、積極的に場面の様子に着目し、学習課題にそって登場人物の行動や様子を想像しようとしている。</p>
1学期	7月	5	<p>言葉の文化③ いなばのしろさぎ 教科書:P88</p> <p>△古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、場面の様子を想像する。</p>	文化	<p>1 1. 学習の見通しをもつ。 2. 絵を見て、どんなお話なのか、想像する。 * P88・89の挿絵を手がかりにしながら、どんなお話なのかを想像させる。人物の服装から、この話のおおよその時代を考えたり、うさぎとわに(わにざめ)が登場することなどを話し合わせる。</p> <p>2・3 3. 絵を見ながら、教師の読み聞かせを聞いて、場面の絵をもとにお話を確かめる。 4. 心に残ったところを発表する。</p> <p>4・5 5. 昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読む。 * 他の日本の神様の本や絵本を読ませる。 * 『本で しらべよう』で学んだことを生かして、日本だけでなく、さまざまな国や地域の昔話や神話・伝承などを探して、読ませる。 * 教師が読み聞かせをするのもよい。 6. 学習を振り返る。 * 地域の神社などの祭神について調べて知らせ、それにまつわる神話等に興味をもたせると生活に広がる。</p>	<p>【知識・技能】 ◎昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ</p> <p>【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ</p> <p>【態度】 ・すすんで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、今までの学習を生かして昔話や神話・伝承の書かれた本を探し、伝統的な言語文化に親しもうとしている。</p>

1学期	7月	4 (話す聞く2)	言葉のひろば③ うれしくなる言葉 教科書:P90 △言葉が表す意味と、その言葉にこめられる気持ちについて考え、話し合う。	言語	1	1. 友達に言われてうれしかった言葉をカードに書き、グループで伝え合う。 * 友達の発表は肯定的に受け止めることを留意する。 2. グループでの発表をもとに、学級全体に代表者が発表する。 3. 学習の見直しをもつ。 * 教材をとおして「うれしくなる言葉」について学び、「うれしくなる言葉」を使って友達の素敵などころを伝え合うという学習の見直しをもつ。	【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く。語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。(A1)ア) 【言語活動例】 ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。(A2)イ) 【態度】 ・すすんで、「うれしくなる言葉」の語句の量を増し、学習課題にそって、「うれしくなる言葉」を使って友達の素敵などころを伝え合おうとしている。
					2	4. 家族に言われてうれしかった言葉を伝え合い「うれしくなる言葉」について考える。 (1) ここまでの活動であげられた「うれしくなる言葉」をもとに、どのような言葉だとうれしく感じるのかを考える。 (2) 自分が言った言葉を振り返る。	
					3	5. 挿絵をもとに、友達が「うれしくなる言葉」を考える。 (1) 挿絵の友達の作品を見て、友達が「うれしくなる言葉」を考える。 * ただ褒めたり、言葉の数が多かったりすればよいのではなく、相手の立場に立って言葉を選んでいるかが大切であると捉えられるようにしたい。 (2) 挿絵における花の描き方の他にも、よいところを見つけて「うれしくなる言葉」を考える。 * なにげない言葉でも、自分が自覚しているよさ、自分でも無自覚のよさを相手に気づいてもらえたとき、それは「うれしくなる言葉」になることを捉えられるようにしたい。 * 肯定的な意味をもつ言葉だけが「うれしくなる言葉」ではなく、相手の立場や心情を踏まえて言葉を選ぶことが大切である。	
					4	6. 友達の素敵などころを思い浮かべて、「うれしくなる言葉」で伝え合う。 7. 「うれしくなる言葉」の学習をまとめる。	
1学期	7月	1	読書のひろば② ひろがる読書のせかい 教科書:P94 △「オリジナル図書カード」や「読書ゆうびん」を作成する活動を通して、いろいろな本があることを知る。	読書	1	1. 読書生活を振り返る。 * 四月からの読書量、心に残っている本について発表させる。自分の読書状況を振り返るとともに、友達の読んでいる本に興味をもたせる。 2. 読んでみたい本を選ぶ。 * 学校図書館と連携し、掲載図書の実物や他のお薦めの本を用意する。学校司書から本の紹介を聞くのもよい。 3. 読んでみたい本、その理由を発表する。 * 書名や表紙、紹介文などから興味をもった理由をあげることができればよい。夏休みに読んでみたい本を各自が決められるようにする。 4. 読書後の活動例を知る。 * 自分の読書記録を残す方法や友達に本を紹介する方法を紹介し、夏休みに取り組むことを勧める。	【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C1)カ) 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ) 【態度】 ・積極的に読書に親しみ、今までの学習を生かして、読書生活を振り返ったり、読みたい本を選んだりしようとしている。
2学期	9月	5 (話す聞く5)	じゅんじょを考えて話そう 話したいな、聞きたいな、夏休みのこと 教科書:P96 ◇夏休みのできごとを、順序を考えて話したり、友達の話を聞いて感想を述べ合ったりする。 ☆学習用語: 始め／中／終わり	話聞	1	<見直しをもとう> 1. 教材名とリード文を読み、学習の見直しをもつ。 (1)夏休みのできごとを順序を考えて話すという学習の見直しをもって、学習計画を立てる。 * 友達の話が聞きたいという思いを高め、紹介し合う活動の見直しをもたせる。 2. 紹介する夏休みのできごとを決める。 (1)夏休み明け、久しぶりに会った友達と夏休みのできごとについて二人で組みになり交流する。 * 話題を決めることができるように、自由に話をさせるとよい。	【知識・技能】 ◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えていく。(A1)イ) 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A2)ア) 【態度】 ・すすんで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして夏休みのできごとを紹介しようとしている。
					2	3. 紹介する夏休みのできごとの話す構成を考える。 (1)話す順序を考えて発表メモを作る。 * メモは短い文で書かせるようにする。 * 「始め・中・終わり」でどのようなことを話すかを確認する。 * 「中」には、したこと、感じたこと、思ったことを話すことを確認する。	
					3	4. 三人で組みになり、話す練習をする。 * 聞き手は質問や感想を伝える。 * 練習では、メモを見ながら話してよい。 * 写真や絵を提示しながら話す練習もするとよい。	
					4	5. クラスのみんなに話す。 * 写真や絵を提示しながら話すようにさせる。	
					5	<ふりかえろう> 6. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確認する。 * 全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 * どんなことに気をつけて、夏休みの思い出を話したかを振り返らせる。	

2学期	9月	2	しを読もう てんとうむし 教科書:P98 □言葉のリズムや響きを楽しみながら、イメージの自由な広がりをとおして詩を楽しむ。	読む	1	1.『てんとうむし』を音読し、気がついたことを発表し合う。 * 詩を範読する前に「てんとうむしを見たことがあるか」「どこで見たか」「どんな形や色をしていたか」「どんな天候の時に見たか」などを発問して、てんとうむしのイメージを想起できるようにする。 2.『てんとうむし』を教室全体で、工夫して音読する。 * 「てんとうむし」になったつもりで、動作化を取り入れたり、読み方を工夫したりして、音読する。	【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ
					2	3.『てんとうむし』を読んだ感想をグループごとに交流したあとに、音読の方法を工夫するために、話し合う。 * 一人読み、ペア読み(一行ずつ交代して読む)、一斉読みなどをして、音読を繰り返しながら、どの行を何人で読むか、誰が読むか、どんな声で読むか、どんな声量で読むか、などについて相談する。 4. グループごとに工夫した音読を発表する。 5. 「生きものの『いのち』に、ちがいがいいのか」について考えて、意見交流をする。	
2学期	9月	2	漢字のひろば③ 二つの漢字でできている言葉 教科書:P100 △二つの漢字でできた言葉の構成を確認し、二つの漢字のつながり方を考える。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 「小石」の意味を考える。 3. 設問1に取り組む。 * 二つの漢字が互いにつながりをもって結びついていることに意識を向けられるようにする。 4. 設問2に取り組む。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって、二つの漢字でできている言葉を読んだり書いたりしようとしている。
					2	5. 設問3に取り組む。 6. 設問4に取り組む。 * つないで作った言葉の意味を考え、どんなときにどのように使うかも発表し合えるとよい。 7. 設問5に取り組む。 8. 設問6に取り組む。	
2学期	9月	2 (書く2)	一年生で学んだ漢字② 教科書:P102 △絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	9. 絵の中の言葉の読み方を確認する。 * 絵に描かれたことと、言葉からわかる広場の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 10. 教科書の絵と言葉を参考に、広場の様子から想像できる短文を作る。 * 描かれている人物と行為、場の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 11. 主語と述語のつながりに気を付けて、絵の中の言葉を使って二文以上が続くように書き、発表し合う。 * まず、広場で、誰が何をしているかを「……が」「……は」で始まる文を書く。 * 語と語の続き方を考えて、主語と述語が整ったまとまりのある文となるようにする。 * 文と文の続き方に注意しながら、続きの文を書く。 12. 学習したことを振り返る。 * 二つの漢字でできている言葉について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2)ア 【態度】 ・積極的に文の中における主語と述語の関係に気づこうとし、学習の見通しをもって書き表し方を工夫して文や文章を書こうとしている。

2学期	9月	12 (書く3)	<p>五 登場人物が考えていたことをそうぞうしよう わにのおじいさんのたからもの 教科書:P104</p> <p>口文章を読み、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p> <p>★ここが大事:登場人物の考えをそうぞうする</p> <p>☆学習用語:登場人物、場面、想像する</p>	読む	1	<p>〈見通しをもとう〉</p> <p>1. 単元の見通しをもつ。 * 単元扉を読み、単元の見通しをもたせる。 * 単元扉の題名、文、絵を見て、お話を想像させる。 * 範読後、音読させる。 * 新出漢字や難語句を確認する。</p>	<p>【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ) ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C1)オ)</p> <p>【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ)</p> <p>【態度】 ・すすんでお話を楽しみ、登場人物が考えていたことを、学習課題にそって本文の言葉を根拠に想像しようとしている。</p>
					2~5	<p>〈たしかめよう〉</p> <p>2. お話の内容の大体をつかむ。 (1)お話の登場人物を確かめる。 (2)お話のできごとを確かめる。 * 誰が何をしたかを考える学習を生かし、おにの子とわにのおじいさんの行動からできごとを確認させる。次の「くわしくよう」の学習につながるので、一つ一つの行動や表現を丁寧に読み取らせておきたい。</p>	
					6~8	<p>〈くわしくよう〉</p> <p>3. 場面の様子に着目し、登場人物の考えを想像する。 (1)わにのおじいさんがどうしておにの子に宝物の場所を教えたのかを考える。 (2)おにの子と、わにのおじいさんの、それぞれにとっての「たからもの」は何かを考える。 * 「ここが大事」に示された例を取り上げて、どの表現からどのような「登場人物の考え」が想像できるかを考えさせるとよい。その際、動作化をしたり、吹き出しに書き込んだりすることなどとおして、人物の様子を想像させることも考えられる。 * 「まとめよう」の学習とも重なるが、『きつねのおきゃくさま』できつねの性格を考えた学習を生かし、おにの子、わにのおじいさんの性格を考えていくことで、それぞれの宝物は何かを考える活動へとつなげていくのもよい。 * わにのおじいさんがおにの子の行動や言葉に心を打たれて宝の場所を教えていることをおさえる。宝の場所を教えた時の気持ちを想像する根拠とさせるとよい。</p>	
					9・10	<p>〈まとめよう〉</p> <p>4. おにの子がどのような人物かを考える。 * おにの子の行動や言葉にサイドラインを引き、それらを手がかりにしながら、おにの子の人柄を考えさせる。 * 『きつねのおきゃくさま』の学習で性格を考える時に大切にしたこと振り返るのもよい。</p>	
					11・12	<p>〈つたえあおう〉</p> <p>5. この単元で学んだ内容や感想を伝え合う。 (1)お話の興味をもった部分や、登場人物に共感した部分に線を引き発表する。 (2)発表し、共有したことをもとに、おにの子か、わにのおじいさんに手紙を書く。 * お話のおもしろいと思ったところや、素敵だなと思ったところに線を引き、なぜそう思ったのか理由も加えてノートにまとめ、発表する。 * 作品の表現や登場人物の魅力など、お話のよさがたくさんあることに気づかせる。 * 意見交換をすることで、同じ場面に興味をもっている、根拠となる言葉や表現が違っている友達がいることに気づかせたい。 〈ふりかえろう〉 6. この単元で学んだことを振り返る。 (1)登場人物の行動や言葉に着目して気がついたことを振り返る。 (2)登場人物に手紙を書く時に気をつけたことを振り返る。 * 登場人物の行動や言葉に着目したことで、その人物の性格や人物像がはっきりしたことを確認する。 * 登場人物の行動や言葉に着目して精読したことで、よりよい手紙を書くことができたことを確認する。</p>	
2学期	9月	2	<p>言葉のひろば④ はんたいのいみの言葉、にたいみの言葉 教科書:P118</p> <p>△対義語や類義語があることを知り、身近な言葉から対義語や類義語を集める。</p>	言語	1	<p>1. 言葉には、反対の意味をもつものや、似た意味をもつものがあることを知り、学習活動に対する見通しをもつ。 * P118・119の上段にある会話を読み、反対の意味の言葉と似た意味の言葉に興味をもち、自分からそれらを探してみたいという意欲をもたせる。</p> <p>2. 「はんたいのいみの言葉」にはどのようなものがあるかを考え、組みになるカードを作る。(設問1) * P118の下段にある設問を学級全体で考えたのち、板書・ワークシート等によって、他にどのような言葉が反対の意味をもつのかについて理解を深め、各自で反対の意味をもつ言葉を探させる。 * うまく言葉を見つけることのできない児童に対しては、教師から言葉一つ示し、その反対語を考えさせるようにする。</p> <p>3. 作ったカードを友達どうしで確かめ合う。(設問2) * 作ったカードが反対の意味になっているかどうかを迷うものについては、全体で共有し確認を行う。</p>	<p>【知識・技能】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p> <p>◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【態度】 ・言葉には反対の意味をもつものや、似た意味をもつものがあることに積極的に気づこうとし、学習の見通しをもって、話や文章の中で言葉を使おうとしている。</p>
					2	<p>4. 「にたいみの言葉」にはどのようなものがあるのかについて考える。(設問3) * P119下段の一つめの設問を学級全体で考えたのち、板書・ワークシート等によって、他にどのような言葉が似た意味をもつ言葉になるのか考えを深めさせる。 * 教科書の既習ページやワークシートを活用するなどして、それらの中で用いられている言葉と似た意味の言葉を各自で探させる。</p> <p>5. 「にたいみの言葉」を分類したり、整理したりして、気づいたことを話し合う。(設問4) * P119下段の二つめの設問や自分で探した似た意味の言葉を分類・整理させ、気づいたことを発表させる。</p> <p>6. 学習したことを振り返る。</p>	

2学期	10月	11 (書く11)	<p>六 まとまりのある文章を書こう 町の「すてき」をつたえます 教科書:P120</p> <p>■生活科の町たんけんで見つけたことやわかったことをもとに、自分の思いや考えが明確になるように事柄の順序にそって簡単な構成を考え、町のすてきを伝える文章を書く。</p> <p>★ここが大事:まとまりのある文章を書く</p> <p>☆学習用語: /メモ/理由/はじめ/中/おわり/組み立てひょう/じゅんじょ</p>	書く	1	<p>〈見通しをもとう〉</p> <p>1. 生活科の町探検で見つけたことやわかったことをもとに、町の「すてき」を書き、友達や家の人に伝えるという学習活動を見通す。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎丁寧な言葉と普通という言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ</p> <p>◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)</p> <p>【態度】</p> <p>・積極的に、他教科での学習や経験を関連させながら事柄の順序にそって構成を考え、学習課題にそって、報告する文章を書こうとしている。</p>
					2・3	<p>〈きめよう・あつめよう〉</p> <p>2. 探検したときに書いた「町たんけんカード」から、町の「すてき」を伝えるために必要なことをメモに書き抜く。</p> <p>* ここでは生活科の町探検で取材して書いた「町たんけんカード」から、「見つけたこと」「聞いたこと」「思ったこと」を区別して、メモとして付箋紙などに書き抜くようにさせる。</p> <p>3. メモをペアで読み合い、内容を確認し合う。</p> <p>* メモは短い言葉で書くこと、観点別にマークを入れることなどを確認する。</p>	
					4・5	<p>〈組み立てよう〉</p> <p>4. 「はじめ・中・おわり」に何を書かか考えて、組み立て表を作る。</p> <p>* 書いたメモを「はじめ」「中」「おわり」を意識して、三つのまとまりに分け、構成を考える。</p> <p>* 順序にしたがって書かせる。この学習では時間的順序や場所的順序を意識させ、選ばせる。</p>	
					6～8	<p>〈書こう〉</p> <p>5. 組み立て表をもとに、文章を書く。</p>	
					9	<p>〈読みかえそう〉</p> <p>6. 書き終えたら、まちがいがいか読み返す。</p> <p>* 自分で読み返す、ペアの友達に読んでもらい助言をもらうなどの工夫が考えられる。</p>	
					10	<p>〈つたえ合おう〉</p> <p>7. 書いた文章を読み合い、よいところを伝え合う。</p> <p>* 順序がわかりやすく書いてあるかなどに着目して読み合い、よさを伝える。</p>	
					11	<p>〈ふりかえろう〉</p> <p>8. まとまりのある文章を書くためにどんな工夫をしたか、めあてにそって振り返る。</p>	
2学期	10月	1 (話す聞く1)	<p>ひろがることば つながる ひろがる 教科書:P126</p> <p>◇上巻の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。</p>	話聞	1	<p>1. 半年間の国語の学習で学んできたことや言葉を思い出して書いたり、出し合ったりする。</p> <p>* 上巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などをあわせて振り返ることができるようにする。</p> <p>* 挿絵やふきだしを参考にする。</p> <p>* 単元名や教材名だけでなく、印象的な言葉や活動を思い出するなど、内容は多様でよい。</p> <p>* 学んできたことを書き出したりして、グループや学級全体で発表し合う。</p> <p>2. 1で出し合ったことが、他の教科や生活の中で、どんなことに生かしているか考える。</p> <p>* 国語の学習が学校生活や日常生活のさまざまな場面で生かされることに気づけるようにする。</p> <p>3. 下巻ではどんなことを学習するのか、想像したことや期待することなどを自由に発表し合う。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア)</p> <p>○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。(A(2)イ)</p> <p>【態度】</p> <p>・すすんで経験したことから書くことを見つけ、今までの学習を生かして思い出したことや下巻の教科書でどんな学習をしたかを共有しようとしている。</p>

2学期	10月	11 (話す聞く3)	<p>一 じゅんじよや様子をあらわす言葉に気をつけよう</p> <p>さげが大きくなるまで</p> <p>教科書:P8</p> <p>□さげの成長について、季節や場所、さげの様子の移り変わりを考えながら、内容の大体を読む。</p> <p>★ここが大事:時・場所・大きさを様子をせつめいする言葉</p> <p>☆学習用語:いつ(時)／どこで(場所)／どんな(大きさや様子)／じゅんじよ</p>	読む	1	<p>〈見通しをもとう〉</p> <p>1. 単元名やいざないの言葉を読み、学習の見通しをもつ。</p> <p>(1)「じゅんじよや様子をあらわす言葉」には、どんな言葉があるかを想起する。</p> <p>(2)「じゅんじよや様子をあらわす言葉に気をつけて読むとは、どういうことかを確認をする。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ)</p> <p>◎「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)</p> <p>○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A(2)ア)</p> <p>・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C(2)ア)</p> <p>【態度】</p> <p>積極的に情報と情報との関係について理解しようとしたり、文章の中の重要な語や文を考えて選び出したりしようとしている。</p>
					2・3	<p>〈たしかめよう〉</p> <p>2. 本文を読んだ感想を伝え合ったり、さげが大きくなるまでの様子を説明させたりすることで、本文に書かれた内容の大体を確認する。</p> <p>(1)100～150字程度の簡単な感想を書き、ペアで伝え合う。</p> <p>* 伝え合ったあとは加筆する時間を確保し、伝え合った結果が残せるようにする。</p> <p>(2)写真が「いつ(時)、どこで(場所)、どんな(大きさや様子)」ことを捉えたものなのかを説明することを通じて、内容の大体を確認する。</p> <p>* 学習の初期であるため、詳細な説明をするのではなく、大体どんな写真なのかを表現できればよい。</p>	
					4～7	<p>〈くわしくよもう〉</p> <p>3. さげが大きくなるまでの様子を、時・場所・大きさや様子をあらわす言葉に気をつけてまとめる。</p> <p>(1)第③段落までの、大人のさげが川を上り、卵を産むまでを整理する。</p> <p>(2)第④段落の孵化したさげの赤ちゃんの様子を整理する。</p> <p>(3)第⑥段落までの、川を下ってきた子どもさげが、八センチメートルぐらいに成長した様子を整理する。</p> <p>(4)第⑦～⑩段落の、海を泳ぎ始めてから産卵期に自分が生まれたもの川へ帰ってくるまでの様子を整理する。</p> <p>* ワークシートや、思考ツール「ステップチャート」「KWLチャート」などを使用するとよいだろう。</p>	
					8・9	<p>〈まとめよう〉</p> <p>4. 「さげって、すごいな。」と思うところ、その訳を書く。</p> <p>(1)挿絵と前時までのワークシートを確認し、自分のいちばん心に残った段落を選ぶ。</p> <p>(2)選んだ箇所を中心に、どのようなことをすごいと思ったのかと、その訳をノート等に記入する。</p> <p>* 書くことの難しい児童がいる場合は、学習の手引きの例を参考にすることを伝える。</p>	
					10・11	<p>〈つたえあおう〉</p> <p>5. 前時に作成した文章を友達と読み合い、考えを広げる。</p> <p>(1)ペアを作り、文章を互いに読み合う。</p> <p>* 文章のよさについて感想を伝えるように助言するとよい。</p> <p>(2)読み合いを通じて考えたことを加筆する。</p> <p>〈ふりかえろう〉</p> <p>6. 作成した文章について振り返る。</p> <p>(1)「時・場所・大きさや様子」のうち、どんな言葉に気をつけたかを考え、記述して振り返る。</p> <p>(2)自分の感想をまとめるときに、どんなことに気をつけて書いたかを考え、記述して振り返る。</p>	
2学期	10月	2	<p>二 まいのしゃしんのちがいをくらべよう</p> <p>この間に何があった？</p> <p>教科書:P20</p> <p>□1枚めの写真から視点を定めて、2枚めの写真になった際、何が起きたかを想像する。</p> <p>☆学習用語: 比べる</p>	読む	1	<p>〈見通しをもとう〉</p> <p>1. P20～27の写真を見ながら気づいたことを出し合い、二枚の写真の間に何が起こったかを考える学習の見通しをもつ。</p> <p>* 三枚続きの写真で、二枚目が「？」になっているページがあることに着目させるなどして、学習への関心を高められるようにする。</p> <p>2. P20・21の二枚の写真比べ、間に何が起こったかを自分なりに想像し、考えをノートに書く。</p> <p>* 羊の毛の様子に着目させて、一枚めと三枚めの写真を比較して考えさせる。</p> <p>3. ノートに書いたことを友達と伝え合う。また、伝え合ってから考えたことをノートに書きたす。</p> <p>* 前後の二枚の写真を見せながら、共通点や相違点、順序などを踏まえ、「なぜ、そう考えたのか」という理由を伝え合えるようにする。</p> <p>4. P22・23を見て、自分たちが考えたことと比べてどうだったかを話し合う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア)</p> <p>○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C(2)ア)</p> <p>【態度】</p> <p>・すすんで共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解し、学習課題にそって、二枚の写真を比べて考えたことを文章にまとめようとしている。</p>
					2	<p>5. 前時の学習を振り返り、P24・25の演奏の写真とP26・27の風呂場の写真を見て、学習の見通しをもつ。</p> <p>6. P24・25の写真とP26・27の写真を見て、それぞれ間に何が起こったのかを考えてノートに書く。</p> <p>* 前時の学習を生かし、前後の写真の共通点や相違点、順序などをもとに、自分の考えを書けるようにする。</p> <p>7. ノートに書いたことを友達と伝え合ったり、友達の考えを聞いてさらに考えたことをノートに書きたしたりする。</p> <p>8. それぞれの写真について考えたことや伝え合ったことを、学級全体で共有する。</p> <p>* P146・147にある写真も活用しながら、共有できるとよい。</p> <p>〈ふりかえろう〉</p> <p>9. 二枚の写真の間に何が起きたかを考える活動をととして、学んだことや感想を共有し、振り返りを書く。</p> <p>* 児童の言葉をもとに、共通点や相違点、順序などを論理的に考える大切さを学んできたことを確認できるとよい。</p>	

2学期	10月	10 (書く10)	<p>二 様子をよく見て、くわしく書こう おもしろいもの、見つけたよ 教科書:P28</p> <p>■見つけた物をよく見て、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫して、友達に様子が伝わるように詳しく文章を書く。</p> <p>★ここが大事:様子がつたわるように書く</p> <p>☆学習用語:メモ/様子/大きさ/色/形/さわった感じ/はじめ/中/おわり/まとまり/矢印/読み返す</p>	書く	1	<p>〈見通しをもとう〉</p> <p>1. 身のまわりにあるもので興味をもったものについて、友達に伝えるように紹介するという課題をもち、学習の進め方を確認する。</p> <p>2. これまでの生活や学習を振り返り、友達に知らせたいものを考える。</p> <p>* 既習の観察記録文と共通することが多いが、異なる点としては、メモの観点を自分で書いたり、同じ観点でまとめて整理したり、同じ大きさのものを例示したり、矢印などの記号を使ったりする点があげられる。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>◎「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)</p> <p>【態度】</p> <p>・すすんで友達に紹介するために自分が見つけたものの様子を詳しく書き、学習課題にそって、文章に対する感想を伝え合おうとしている。</p>
					2・3	<p>〈きめよう・あつめよう〉</p> <p>3. 知らせたいものの様子を、メモに書いて集める。</p> <p>(1)様子を表す観点を確認し、メモに書いて集める。</p> <p>* 形、大きさ、色など観点となる言葉も書くようにさせる。</p> <p>(2)集めた情報について、交流して確かめる。</p> <p>* 交流をとおして、集めた情報を確かめたり、必要に応じて増やしたりさせる。</p>	
					4・5	<p>〈組み立てよう〉</p> <p>4. メモをまとまりごとに並べる。</p> <p>(1)集めた情報を観点ごとにまとめる。</p> <p>(2)メモを並べながら、文章の組み立てを考える。</p> <p>* 「はじめ」「中」「おわり」を示した構成表の上にメモを置いて動かしたりしながら、まとまりを考えさせる。まとまりを枠で囲んだり線でつないだりして、視覚的に意識させるとよい。</p> <p>* 友達と交流し、観点ごとのまとまりや、情報の過不足を確かめさせる。</p>	
					6～8	<p>〈かこう〉</p> <p>5. まとまりに気をつけて、文章を書く。</p> <p>* 例文を読み、「大事な言い方」に着目させる。大きさについては、数値と共に同じような大きさのものを例示していたり、矢印などの記号を用いてわかりやすく表したりしていることに気づかせる。</p> <p>〈よみかえそう〉</p> <p>6. 書いた文章を、声に出して読み返す。</p> <p>* 声に出して読むことで、誤字脱字や文末表現の統一などに自分で気づけるようにする。</p> <p>* 必要に応じて、二人組やグループになって、協同推敲を行うのもよい。その際は、よいところは積極的に褒めたうえで、さらによくになりそうなところを伝えるようにさせる。</p>	
					9・10	<p>〈つたえあおう〉</p> <p>7. 友達と文章を読み合う。</p> <p>* お互いの文章のよいところを認め合い、感想を伝えるようにさせる。</p> <p>〈ふりかえろう〉</p> <p>8. 見つけたものの様子を伝えるためにどんなことに気をつけたか、めあてにそって振り返る。</p> <p>* 単元全体をとおして「わかりやすく説明するための工夫」を確かめたり、使ったりすることができたか、振り返るようにさせる。</p>	
2学期	11月	1	<p>言葉の文化④ 「あいうえお」であそぼう 教科書:P32</p> <p>△折句の文を読み、自分の名前やすきなものの名前を使って折句の文を作る。</p>	文化	1	<p>1. 学習の見通しをもつ。</p> <p>* 古くからある言葉遊びの活動を行うことを教師が伝える。</p> <p>2. P32上段の「あいうえお」を使った文を声に出して読む。</p> <p>* 文の中に「あいうえお」が使われていることを確認させる。</p> <p>3. 自分の名前やすきなものの名前を使った折句の文を作る。</p> <p>* P32下段の「くりひろい」を使った文を参考にさせる。</p> <p>4. 作った文を紹介し合う。</p> <p>* 作った文の中に使われている名前を確認させる。</p> <p>5. 学習を振り返る。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3)イ)</p> <p>【態度】</p> <p>・すすんで長く親しまれている言葉遊びをとおして、言葉の豊かさに気づこうとし、学習の見通しをもって折句の文を作っている。</p>

2学期	11月	7	<p>三 心にのこったところをしようかいし合おう ないた赤おに 教科書:P34</p> <p>□登場人物の気持ちの移り変わりを考えながら、『ないた赤おに』を読み、心に残ったことを話し合う。</p> <p>★ここが大事:自分の考えをふりかえる</p> <p>☆学習用語:登場人物/できごと/変化</p>	読む	1	<p>〈見通しをもとう〉</p> <p>1. 単元扉を読み、単元の見通しと初読の感想をもたせる。 * 単元扉の教材名、言葉、挿絵を見て、お話を想像させる。 * 通読して最初の感想を交流してもよい。 * 新出漢字や難語句を確認させる。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ)</p> <p>◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C1)オ)</p> <p>◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C1)カ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ)</p> <p>【態度】</p> <p>楽しんでお話を読み、言葉や表現に着目しながら、繰り返し読むことで初読の感想から自分の考えを深めようとしている。</p>
					2	<p>〈たしかめよう〉</p> <p>2. 登場人物とできごとを確かめる。 * 場面ごとに登場人物とできごとを確認し、できごとの順序を整理させる。教科書のように表にしてもよい。</p>	
					3・4	<p>〈くわしくよもう〉</p> <p>3. 人間たちや青おにとの関わりから、赤おにがどのように変わったかを考える。 * 赤おにがどう変わったかではなく、「赤おにと人間たちとの関わり」「赤おにと青おにの関わり」が、それぞれどう変わったのかに着目させる。その際、P.41・45・51の3枚の挿絵を用意して、考えさせてもよい。</p>	
					5	<p>〈まとめよう〉</p> <p>4. 赤おにと青おにがそれぞれどのようなおになのかを考える。 * 「たしかめよう」で作成した表(場面ごとの登場人物・できごとをまとめた表)を生かしながら、それぞれのしたことに着目させ、どんな人柄であるのかを考えさせる。 * 『きつねのおきやくさま』『わにのおじいさんのたからもの』の学習を振り返ることで、二人の人物の行動や言動など、本文の言葉に着目させる。</p>	
					6・7	<p>〈つたえあおう〉</p> <p>5. お話を読んで心に残ったこととその理由を紹介し合う。 * 意見交換をすることで、同じ場面や表現に興味をもっている、根拠となる言葉が違っていたり、同じ言葉を根拠としていても、受け取り方が少し違っていたりする友達がいることに気づかせる。</p> <p>〈ふりかえろう〉</p> <p>6. 心に残ったことを考えるときに大切にしたことや、心に残ったことを紹介し合って気づいたことを振り返る。 * 「見通しをもとう」で出てきた初読の感想と、「つたえあおう」で出てきた感想を比べることで、自分の考えを振り返らせる。精読することで自分の考えが深まったことを実感させる。</p>	
2学期	11月	5	<p>読書の広場③ 「お話しじゅつかん」を作ろう 教科書:P56</p> <p>△自分の読んだ本の中でいちばん心に残ったところを絵に描いて紹介する。</p> <p>☆学習用語:題名/作者</p>	読書	1・2	<p>1. 「お話しじゅつかん」で本を紹介し合うことを知り、本を読んで心に残ったことをメモする。 (1)心に残った場面の絵を描き、「お話しじゅつかん」で本を紹介し合うことを知る。 (2)本を読み、心に残ったところ、そのわけをメモする。 * 読む時間を確保する。複数の本を読み、その中から絵を描く本を選ぶようにさせる。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。(C1)オ)</p> <p>◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。(C1)カ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。(C2)イ)</p> <p>【態度】</p> <p>・すすんで読書をし、今までの学習を生かして、心に残ったところを絵に描き、本を紹介しようとしている。</p>
					3・4	<p>2. 心に残ったところを絵に描き、ふさわしい題名をつける。 (1)読んだ本の中から、紹介する本を選ぶ。 (2)心に残ったところを絵に描く。 * 必要に応じて本を見直させるが、本にある絵をまねるのではなく、想像を膨らませて描かせる。 (3)絵の題名をつける。 * 登場人物の行動や気持ちなどをもとに、短い言葉で題名をつけさせる。 (4)絵にカードをつけ、展示する。</p>	
					5	<p>3. 「お話しじゅつかん」を開き、本を紹介し合う。 (1)「お話しじゅつかん」を巡って、本を紹介し合う。 * ポスターセッションのような形式で行う。紹介する人は、お話のあらすじや心に残ったことなどを伝える。聞く人は、質問をしたり感想を話したりする。読みたいと思った本はメモしておく。 (2)「お話しじゅつかん」の学習を振り返る。 * 紹介された本は、教室にしばらく展示し、読書の日常化を図りたい。読んだら、感想カードを書き、紹介者に渡すようにする。</p>	

2学期	11月	8 (話す聞く8)	<p>四 しつもんしたり答えたりして、つないで話し合おう 「クラスお楽しみ会」をひらこう 教科書:P60</p> <p>◇話し合いでクラスで行う遊びを決め、「クラスお楽しみ会」を開く。</p> <p>★ここが大事:つないで話し合う</p> <p>☆学習用語:カード/理由/質問/つなぐ/話し合い/伝える</p>	話聞	1	<p>〈見通しをもとう〉</p> <p>1. 「クラスお楽しみ会」で遊ぶ遊びを決めるために、グループで話し合うという学習の見通しをもち、「学習のすすめ方」をもとに学習計画を立てる。 * 「クラスお楽しみ会」を開くために自分たちでクラス遊びの内容を決めるという目的を明確に設定することで、話し合いの意欲をもたせる。</p>	<p>【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ)</p> <p>【言語活動例】 ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。(A(2)イ)</p> <p>【態度】 ・積極的に互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぎ、学習課題にそって「クラスお楽しみ会」で遊ぶ遊びを決めるために、グループで話し合おうとしている。</p>
					2・3	<p>〈きめよう・あつめよう〉</p> <p>* 最初から一つを選ぶのではなく、いくつか出した中から選ばせるとよい。</p> <p>〈組み立てよう〉</p> <p>3. カードに「クラスお楽しみ会」でやりたい遊びとその理由を書く。 * 理由は短い文で書かせるようにする。 * 理由はいくつかあってもよいことを伝える。</p>	
					4・5	<p>〈話そう・聞こう〉</p> <p>4. 話し合いを行う。 (1)P61・62を読み、話し合いの流れを知る。 * 役割読みをさせ、イメージをつかませるとよい。 (2)P63「ここが大事」を読み、話し合いの仕方を知る。 * つないで話し合うことが大事であることを伝える。 (3)カードを使って話し合う。 * グループで、どの遊びがよいか一つ決めるようにする。また、その理由もまとめさせる。</p>	
					6・7	<p>5. グループの話し合いをクラスに伝える。 (1)グループで発表の準備をする。 (2)決まった遊びと、その遊びに決まった理由をクラス全体で発表する。 (3)「クラスお楽しみ会」でやりたい遊びを決める。 * 教師が板書をして、話し合いを整理するとよい。</p>	
					8	<p>〈つたえ合おう〉</p> <p>6. 話し合いの感想を伝え合う。 * 児童の感想の中から、つないで話し合うために大切なことに関するものを板書し、整理する。</p> <p>〈ふりかえろう〉</p> <p>7. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 * 全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 * 友達の話とつないで話し合うために、どんな工夫をしたかを振り返らせる。 * 特別活動の時間等を使って、「クラスお楽しみ会」を開く。</p>	
2学期	11月	5 (書く5)	<p>心がうごいたことを書こう みじかい言葉で 教科書:P64</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方をくふうして心が動いたことを短い言葉で書く。</p> <p>★ここが大事:心がうごいたときに感じたことを短い言葉で書く</p> <p>☆学習用語:心が動く/なりきる/短い言葉で</p>	書く	1	<p>〈見通しをもとう〉</p> <p>1. 学習活動の見通しをもち、教科書の三つの時を読む。 (1)心が動いたことを短い言葉で書き表すという学習課題を知り、家や学校でわくわくしたり、どきどきしたり、はっとしたりしたことを思い出す。 (2)教科書の三つの詩を読み、感想を書く。 * リズムを楽しんだり、様子を思い浮かべたりしながら音読するなど、短い言葉で表現するよさやおもしろさを味わわせたい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ)</p> <p>【態度】 ・すすんで心が動いたことを短い言葉で工夫して書き、学習課題にそって、友達の作品のよさを見つけて伝え合おうとしている。</p>
					2	<p>2. 前時に書いた感想を発表し、内容について話し合う。 (1)作者は何を感じて心が動いたのか、それをどのようにして書いたのか全体で話し合う。 (2)心が動いたことを書くときの表現を集める。 * P64・65の作品のおもしろさや表現の特徴に着目させる。</p>	
					3	<p>3. 心が動いたことを短い言葉で書く。 (1)経験したことの中から「心がうごいたこと」を探して、書きたいことを決める。 (2)心が動いたことを短い言葉で工夫して書く。 * 「楽しかった」「おもしろかった」というような一般的な表現ではなく、自分の気持ちを素直に表現する言葉を探させたい。 * P64のふきだしを参考にして、全員で何かになりきって書いてみてもよい。 書くことが難しい児童には見立て遊びや教師との対話をそのまま表現するなどの支援が考えられる。</p>	
					4	<p>4. 書いた作品を読み返す。 (1)友達と作品を読み合い、推敲する。 (2)清書する。</p>	
					5	<p>〈ふりかえろう〉</p> <p>5. 完成した作品を読み合い、感想を伝え合う。 * よさを見つける観点を提示してもよい。 * 観点令:繰り返しのリズム、音を表す言葉のおもしろさ、なりきりや見立てのおもしろさ、題名の工夫など。 * 付箋紙などに感想を書いて渡すと、意欲につながりやすい。</p> <p>6. 心が動いたことを短い言葉で書くためにどんな工夫をしたか、めあてにそって学習を振り返る。</p>	

2学期	12月	2	漢字の広場④ 漢字のつかい方と読み方 教科書:P66 △漢字の使い方や読み方、意味などを考えて漢字を正しく使う。 ☆学習用語:おくりがな	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 2. 「生」の読み方について、話し合う。 * P66上段の例文を声に出して読み、漢字の読み方の違いを確かめ、意味の違いを考えるようにする。 3. 「後」「行」「通」の読み方と、それぞれの意味の違いを考え、話し合う。	【知識・技能】 ◎当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。(1)エ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見直しをもって、漢字を正しく使おうとしている。
					2	4. 送り仮名によって読み方が変わる漢字をもとに、「おくりがな」の役割を考える。 5. P67下段の設問をもとに、読み方によって送り仮名が変わることを理解する。 6. 複数の読み方がある漢字を集めて、短文を作り、発表し合う。 * 『二上までに学んだ漢字』(P163)を参考に、たくさんの読み方がある漢字が他にもあるか探し、語例を考え、それをもとに短文作りに取り組みとよい。	
2学期	12月	2 (書く2)	一年生で学んだ漢字③ 教科書:P68 △絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	7. 絵の中の言葉の読み方を確認する。 * 絵に描かれたことと、言葉からわかる様子をたくさん発表できるようにする。 8. 教科書の絵と言葉を参考に、絵に描かれている様子から想像できる短文を作り、語と語の続き方に注意して文を書く。 * 絵の中には、意味のつながりがある言葉があることを確認しておく。 9. 主語と述語のつながりに気をつけて、絵の中の言葉を使って二文以上が続くように書き、発表し合う。 * 語と語の続き方を考えて、主語と述語が整ったまとまりのある文となるようにする。 * 文と文の続き方に注意しながら、続きの文を書く。 10. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ 【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ 【態度】 ・積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見直しをもって文や文章を書こうとしている。
2学期	12月	12 (書く3)	五 せつめいのくふうを読んでたしかめ、せつめい書を書こう ジャンプロケットを作ろう 教科書:P70 □順序を示す書き方を知る。 ★ここが大事:じゅんじょをしめす書き方でせつめいする ☆学習用語:説明の工夫/順序/まず/つぎに	読む	1	〈見直しをもとう〉 1. 単元扉を読み、「せつめいのくふうを読んでたしかめ」とは、どんな読み方なのかを考えたり、説明書を書く方法について確認したりして、学習の見直しをもつ。 (1)おもちゃの説明書に書かれている言葉には、どんな言葉があるかを想起し、発表する。 (2)「せつめいのくふう」とは、本文に出てくるジャンプロケットの重要な語や文が、どうやってわかりやすい書き方にされているかを読むことだ、と確認をする。	【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C1)ア ◎「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C1)ウ 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2)ア ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C2)ア 【態度】 ・時間的な順序や事柄の順序などをすすんで考え、学習課題にそって説明の工夫を確かめようとしている。
					2・3	〈たしかめよう〉 2. 本文に書かれた内容の大体を確認する。 (1)用意する材料と、道具はなんだったのかを読み取り、ペアを作って確認する。 (2)作業手順がどんな順序となるか、段落の切れ目を確かめることで理解する。	
					4～7	〈くわしくよう〉 3. ジャンプロケットが完成するまでの順序、すること、気をつけることを整理する。 (1)「一 とび出すしかけを作る」を読み、表を使って整理する。 (2)「二 ロケットとはっしゃ台を作る」を読み、表を使って整理する。 (3)「あそび方」を読み、表を使って整理する。 * P77の表のワークシートや、思考ツール「ステップチャート」「KWLチャート」「クラゲチャート」などを使用するとよいだろう。	
					8・9	〈まとめよう〉 4. 作り方をわかりやすく説明するために、どのような工夫がされているかをノートにまとめる。 ・本文中の写真の使い方 ・文の書き方について、「わかりやすい」と思った工夫	
					10～12	〈つたえあおう〉 5. 書いた文章を友達と読み合い、考えを広げる。 (1)ペアを作り、ノートを互いに読み合う。 * 友達の文章のよいところや、自分との違いを伝えるように助言するといいたいだろう。 (2)読み合いを通じて考えたことを加筆する。 〈ふりかえろう〉 6. 学習を振り返る。 (1)『ジャンプロケットを作ろう』の文章の書き方について、どんな工夫を見つけたかを振り返る。 (2)次の教材で「おもちゃのせつめい書」を書く際に、どんな工夫をしてみたいかを記述をする。	

2学期	12月	7 (書く7)	<p>五 せつめいのくふうをたしかめて読み、せつめい書を書こう おもちゃのせつめい書を書こう 教科書:P80</p> <p>■おもちゃの作り方や遊び方について、順序にそって構成を考え、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫して説明書を書く。</p> <p>★ここが大事:せつめい書を書く</p> <p>☆学習用語:伝える/メモ/説明書/組み立て/じゅんじょ/作り方/あそび方/一、二、三…</p>	書く	1	<p><見直しをもとう> 1. おもちゃの説明書を書き、友達に伝える学習活動を見通す。 * P80「学習のすすめ方」参照。 * 他教科で作ったおもちゃを取り上げて活用することもできる。</p> <p><きめよう・あつめよう> 2. おもちゃの作り方や遊び方を思い出し、メモに書く。 * おもちゃを作ったときや遊んだときを思い出せるように写真を掲示したり、一緒に遊んだ友達と対話させたりすることも効果的である。</p>	<p>【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(I2ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B1イ)</p> <p>【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B2ア)</p>	
					2	<p><組み立てよう> 3. メモをもとに、説明書の組み立てを考える。 (1)組み立て方の工夫を考える。 * おもちゃを作ったときに気づけたこと、遊ぶときのポイントなど、作ったからこそわかることを書くようにすることで、書く必然性が増す。 (2)書いたメモを短冊のように切って順序を並べ替えたり、番号を書いたり書き足したりして、組み立てる。 * 二人組になって意見を交換しながら説明書に書くことを確かめ合い、メモを整理することもできる。 * まとまりごとに順序よく配置されているかという点に注目する。加えて、読み手にとって必要な情報が示されているかという点についても注目させたい。</p>		<p>【態度】 ・積極的に考えが明確になるように構成を考え、学習課題にそって、わかりやすくおもちゃを説明する文章を書こうとしている。</p>
					3・4	<p><書こう> 4. 説明書を書く。 * P83「ここが大事」の順序を示す書き方(番号)や呼びかける書き方を全体で確認し、順序立てて書かせる。 * 一緒に作ったり遊んだりすることを想定しながら、読む人を意識して書くようにさせたい。 * 効果的に写真や絵を入れるとよい。</p>		
					5	<p><読みかえよう> 5. まちがいがいないか読み返す。 * 友達どうして助言し合ったりすると効果的である。 * 時間があれば、友達と交流するときに実際におもちゃの説明書を読みながら作ることができるか試して、加筆修正してもよい。</p>		
					6	<p><つたえ合おう> 6. 友達と読み合う。 * 順序を考えて書けたか、作る際の注意点を思い出して書けたかなどを確認する。 * 書いた説明書を使って、友達とおもちゃを作ったり遊んだりする場を設け、書いた説明書で過不足がないかさらに確かめる。おもちゃがうまく完成すれば、書いた目的が達成でき、さらに意欲につながる。</p>		
					7	<p><ふりかえろう> 7. おもちゃの作り方や遊び方がよくわかる説明書にするためにどんなところを工夫したか、めあてにそって振り返る。</p>		
3学期	1月	2	<p>しを読もう せかいじゅうの海が 教科書:P84</p> <p>□音読をとおして言葉のリズムや響きを楽しむとともに、無限に広がる想像の世界を楽しむ。</p>	読む	1・2	<p>1. 題名に着目して範読を聞き、初発の感想を発表する。</p> <p>2. さまざまな読み方で、繰り返し音読する。</p> <p>3. 第1から第4のそれぞれの連で、その大きさを想像して、感想を交流する。 * 各連の「大きな」のイメージを自由に交流させたい。ただの「大きな」ではない。「せかいじゅう」という表現に着目するように助言する。</p> <p>4. 第5連の大きさを想像する。 * 終連のイメージは、さらに際限がない。音読を楽しみながら、豊かな想像を促したい。</p> <p>5. グループで音読方法を工夫して、発表し合う。 * 想像を楽しむために、「せかいじゅうの〇〇」の「〇〇」に入る言葉を出し合い、様子やしたいことを話し合わせる(例:花、ケーキ、雲、夢など)。</p> <p>6. 「どんなに大きな……だろな。」から、想像したことを絵に描いたり、思ったことを文章に書いたりする。</p> <p>7. できあがったものを発表して、感想を伝え合う。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(I1ク)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C1カ)</p> <p>【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2イ)</p> <p>【態度】 ・詩を読んで感じたことやわかったことを積極的に共有し、学習の見直しをもって想像したことを発表しようとしている。</p>	

3学期	1月	11 (話す聞く3)	<p>六 場面や人物の様子をそうぞうして、音読げきをしよう かさこじぞう 教科書:P88</p> <p>口文章を読んで、場面や登場人物の様子に着目して具体的に想像し、伝え合ったり演じたりする。</p> <p>★ここが大事:場面や人物の様子がつたわるように音読する</p> <p>☆学習用語:登場人物/音読/場面/発表/様子</p>	読む	1	<p>〈見通しをもとう〉</p> <p>1. 単元の見通しをもつ。 * 単元扉の作品名、言葉、挿絵を見て、お話を想像させる。 * 初発の感想をノートやワークシートに書かせる。互いの感想を共有する。 * 音読発表会をめぐって教材文を読んでいくことを確認する。 * 新出漢字や難語句などを確認する。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C1)カ</p> <p>【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ</p> <p>【態度】 ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって音読発表会をしようとしている。</p>
					2	<p>〈たしかめよう〉</p> <p>2. お話の内容の大体をつかむ。 (1)登場人物を確かめる。 (2)お話の中でできごとや、はじめと終わりで何が変わったのかを確かめる。 * 物語のあらすじの大体をつかめるようにする。今までの学習を生かし、場面、登場人物、できごとの表を用意しておくのもよい。 * 音読劇につなげるため、登場人物とは別に語り手がいることも確認する。</p>	
					3~6	<p>〈くわしくよう〉</p> <p>3. 音読劇をするために、劇を通して伝える場面や人物の様子を考える。 (1)6人のじぞうさまは、なぜいろいろなものをじいさまとばあさまに届けたのでしょうか。 (2)じいさまとばあさまは、どのような人物だと思いますか。それがわかるところを見つけて紹介し合ひましょう。 * 「たしかめよう」で作成した主なできごとの表を使ってじいさまのしたことを確認したり、その時にじいさまが言っていた言葉を教科書にサイドラインを引いて確認したりして考えさせる。 * じいさまとばあさまのしたことや言った言葉に着目しながら人柄を考えさせる。</p>	
					7・8	<p>〈まとめよう〉</p> <p>4. お話の中で好きな場面を選び、理由とともに紹介する。 * 教科書にある5つの場面の絵を用意しておくもよい。 * 好きな場面を選んだ人どうして集まり、その場面のよさを伝えさせる。さらに、その場面のよさを改めて考えさせてもよい。 * 好きな場面として選んだ場面が異なる人とグループを組ませ、お互いの考えを交流させてもよい。 * 『ないた赤おに』の学習を生かし、自分の理由と友達の原因を比べることで、自分の考えを振り返り、考えを深めさせる。</p>	
					9~11	<p>〈つたえあおう〉</p> <p>5. グループで役割分担をし、準備をして音読発表会を行う。 (1)場面や人物の様子が伝わるようにどこをどのように工夫するのかを相談する。 (2)役の分担を決めて、音読発表会を開き、他のグループの発表を聞いて感想を伝える。 * 「ここが大事」を読み、音読の工夫についておさえる。 * 登場人物の行動から性格を想像していくことで、声量や間の取り方など、音読の際の根拠となることを確認する。 * 実際に声を出しながら、音読の工夫をさせる。 * どこを工夫していたかを瞬時に聞き取るのが難しければ、発表者が予めどこを工夫して音読するのかを発表させてもよい。 * 読み方の工夫をしていた点に目を向けさせ、お互いのよさを感じられるようにさせる。</p> <p>〈ふり返ろう〉</p> <p>6. 音読発表会を振り返る。 (1)場面や人物の様子を考える時に、気をつけたことを振り返る。 (2)音読発表会を経て、改めて音読してみたいと思ったものを見つける。 * 「つたえあおう」で出てきたお互いの工夫した点は、「くわしくよう」での活動が生きていたからだ気づかせる。 * 音読してみたいものを自分で探すのが難しいようであれば、P105にあるような本を読み聞かせするのもよい。</p>	
3学期	1月	3	<p>言葉の文化⑤ かるたであそぼう 教科書:P106</p> <p>△日本に古くから伝承されている昔遊び(かるた)を知り、実際に遊ぶこととおしてその魅力を知る。</p>	文化	1・2	<p>1. 昔から伝わるかるたについて知るとい見通しをもつ。 * 正月になると目にしたり、体験したりした昔の遊びを自由に発表させてもよい。 * かるた遊びをなぜするのだろうか、と問うことで課題意識がもてるだろう。</p> <p>2. グループでかるたを作成し、実際に体験する。</p>	<p>【知識・技能】 ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3)イ</p> <p>【態度】 ・すすんで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づき、学習の見通しをもってかるたを楽しもうとしている。</p>
					3	<p>3. 地域のかるたについて由来を調べ、実際に体験をとおして言葉の豊かさに気づく。 * 第1時と同様に、これらの遊びをなぜするのだろうか、と問うことで課題意識をもちながら遊ぶことができるだろう。</p> <p>4. 学習を振り返る。</p>	

3学期	1月	4 (話す聞く4)	じゅんじょに気をつけてせつめいしよう おはじきのあそび方 教科書:P108 ◇昔の遊びについて、遊び方を調べて説明する。 ☆学習用語:順序を表す言葉/メモ/説明/言葉/始め/中/終わり/順序	話聞	1	〈見通しをもとう〉 1. 教材名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)昔の遊びについて、遊び方を調べて、友達に説明するという学習の見通しをもって学習計画を立てる。 * 生活科の学習と関連させ、昔の遊びを思い出させる。 * 一つの遊び道具でも多くの遊び方があることに気づかせ、友達がまだ知らない遊び方を知らせたいという意欲をもたせる。 2. 説明する遊びを決め、遊び方を調べる。 (1)友達と出合った昔の遊びから、説明する遊びを選ぶ。 * 最初から一つを選ぶのではなく、いくつか出した中から選ばせるとよい。	【知識・技能】 ◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A(2)ア) 【態度】 ・積極的に相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして、昔の遊びの遊び方について説明しようとしている。
					2	(2)遊び方を調べる。 * 家族や地域のかたに遊び方をきいたり、図書館で調べたりする時間を設ける。 (3)調べた遊び方で遊ぶ。	
					3	3. 説明のメモを書き、練習をする。 (1)説明をするためのメモを書く。 * 始め、中、終わりでのようなことを話すかを確かめる。 * 「中」には、順序を表す言葉を使うことを確かめる。 (2)メモをもとに、遊び方について順序に気をつけて説明する練習をする。 * 順序を表す言葉を意識して説明する練習をすることを確認する。	
					4	4. 遊び方を説明する。 (1)メモをもとに、遊び方について順序に気をつけて説明する。 * 順序を表す言葉を意識して説明することを確認する。 〈ふりかえろう〉 5. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 * 全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 * 遊び方の説明をするとき、どんなことに気をつけて話したかを振り返らせる。	
3学期	2月	2	言葉の広場⑤ 主語とじゅつ語 教科書:P110 △文を読んで、主語と述語の対応を考え、正しく使うことができる。 ☆学習用語:主語/述語	言語	1	1. 冒頭の会話文を読んで、主語が欠落すると、伝えたい内容が正しく伝わらないこともあることに気づく。 * 男の子の最初の言葉(「あっ、来た。」)を黒板に掲示し、文意の不明確さに気づかせる。 2. 主語と述語の整った文はわかりやすく、相手に伝わりやすいことを理解する。 * 男の子は何が来たと言っているのか考えさせ、主語を補った文を発表させる。 * 主語が明示されることで文意が明確になることに気づかせる。 3. 主語にあたる言葉を補って、主語と述語の整った文を作る。 * いくつか児童にあげさせ、「誰が」「何が」のどちらにあたるか確認する。 4. 話すとき・書くときは主語と述語の対応に気をつけることが重要であることを理解する。	【知識・技能】 ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ) 【態度】 ・積極的に文の中における主語と述語との関係に気づき、学習の見通しをもって文を読んだり書いたりしようとしている。
					2	5. P110下段～P111上段L8を読んで、主語と述語による文の形を確認する。 * 主語は「誰が」「何が」で表せ、述語は「どうする」「どんなだ」「なんだ」で表せることに気づかせる。 6. P111上段L5～8を読んで、主語と述語について理解する。 * 用語の定着のためにも、「主語」「述語」については板書にして、ノートに書かせたり、何回か声に出して言わせてみたりする。 7. P111上段L9～下段L5を読んで、主語と述語の形を理解する。 * 主語が「○○は」「○○も」などの形になることもあること、過去のことを表す場合、述語が「どうした」のようになることを理解させる。 8. 文を読んだり書いたりする際には、主語と述語に注意するよう心がけるようにする。	

3学期	2月	2	漢字の広場⑤ 同じ読み方の漢字 教科書:P112 △同じ読み方の漢字を集め、漢字を正しく使う。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 2. P112上段の文を声に出して読み、気づいたことを話し合う。 * 「長」「鳥」は、漢字の意味は異なるがどちらも「チョウ」と読むことを確認する。 * 読み方は同じでも、意味や使い方が違う漢字について関心をもてるようにする。 3. 設問1に取り組む。 4. 設問2に取り組む。 (1)「かい」「せい」など同じ読み方をする漢字を集めて文を作る。 (2)友達と読み合い、それぞれの漢字の意味や使い方の違いについて話し合う。 * 字音の面で共通する漢字の仲間集めとして、ゲーム感覚で取り組み、同音の漢字に関心が向けられるようにする。 * ただ単に同音の漢字を並べるのではなく、語句や文などの用例をもとに、それぞれの意味の違いを考えられるようにすることが重要である。	【知識・技能】 ◎当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。(1)エ 【態度】 ・積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見直しをもって、同じ読み方の漢字を正しく使おうとしている。
					2	5. P113の「か」「とう」「し」と読む漢字を集めて語句を作り、発表し合う。 * 「か」「とう」「し」と読む漢字をそれぞれ集めるようにする。 ・「か」下、火、花、科、夏、家、歌 ・「とう」冬、当、東、答、頭 ・「し」子、四、糸、止、市、思、紙 * あてはめてできた言葉について、意味を確認し、それをもとに短文を作り、発表し合い、聞き合い、その言葉の使い方が正しいかどうか確認できるとよい。 6. 同じ読み方をする漢字を集めて問題を作り、解答し合う。 * 巻末『漢字を学ぼう』を参考に、同音の漢字を集めて同様の問題を作るようにし、交流する。 7. 学習したことを振り返る。 * 同じ読み方の漢字を正しく使うことができるように、日常の言語生活でも注意していくよう意識づける。	
3学期	2月	13 (書く13)	七 思い出をくわしく書いて、読みかえそう こんなことができるようになったよ 教科書:P114 ■経験したことやできるようになったことなどについて、必要な事柄を集めたり確かめたりして文章を書き、まちがいがいいか読み返す。 ★ここが大事：けいけんしたことをくわしく書く／文章を読みかえす ☆学習用語：思い出す／メモ／順序／日記／組み立て／組み立て表／はじめ／中／おわり／読み返す／見直す／たしかめる／小さく書く字／点／丸／かぎ／会話／原稿用紙	書く	1	〈見直しをもとう〉 1. 二年生になってからのことを思い出して、できるようになったことなどを書いて友達に伝える学習活動を見通す。	【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ◎「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ) 【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・すすんでできるようになったことをメモに書いたり組み立て表を作ったりして詳しく書き、学習課題にそって、文章を読み返して友達と感想を伝え合おうとしている。
					2・3	〈きめよう・あつめよう〉 2. できごとを思い出して、書くことを決める。 * 二年生のでできごとの中から心に強く残っていることを発表し合い、文章に書く題材について考える。 * 二上『つづけて みよう ―― 日記』に関連したものや、各自が書いてきた日記があれば、そこから話題を探すこともできる。	
					4・5	〈組み立てよう〉 4. 文章の組み立てを考える。 (1)組み立て表を活用して、書くことを選び、順序を考える。 (2)メモに番号を振り、組み立て表に貼って固定する。 * 書き加えたいことが出てきたときは適宜メモを加えたり、矢印で示したりさせる。	
					6～8	〈書こう〉 5. 組み立て表の順序にそって、文章を書く。 * P119の原稿用紙の使い方を参照にさせたり、すぐに見られるように手引きとして別紙で用意したりするとよい。	
					9・10	〈よみかえそう〉 6. 間違いがないか、思い出として必要なことが書かれているか、読み返す。 * P116の例文を全員で読み、「文章を見直すときに気をつけること」をヒントにして、直した方がよいところを見つけさせる。 * 訂正するときの記号なども伝えてよい。 * 表現のよい点についても気づかせたい。会話が入っていることや感じたことや考えたことなどが詳しく書かれていることなどもおさえる。 * 実態に合わせ、必要に応じて清書をする。	
					11・12	〈つたえ合おう〉 7. できあがった文章を読み合い、感想を伝え合う。 * 作品のよさに着目して感想を伝え合うようにさせる。 * 友達だけでなく、保護者に協力を求めて感想をもらってもよい。発展として、それに対してさらにお礼の手紙を書く活動なども考えられる。 * 付箋紙に感想を書き、作品に貼るなどすると達成感を味わえたり、学習意欲が喚起されたりすることが期待できる。	
					13	〈ふり返ろう〉 8. できごとを詳しく書くためにどんな工夫をしたか、文章を読み返すときにどんなことに気がつけたか、めあてにそって振り返る。	

3学期	2月	3	<p>言葉の広場⑥ 音や様子をあらわす言葉 教科書:P120</p> <p>△擬声語や擬態語のはたらきなどを理解し、文の中で使う。</p>	言語	<p>1</p> <p>1. 言葉には、音や様子を表すことができるものがあることを理解し、学習活動に対する見通をもつ。</p> <p>2. 「音をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について理解する。 * P120下段を読み、まずは「音をあらわす言葉」にはどのようなものがあるか具体的にあげさせ、板書などを活用して整理していく。</p> <p>3. 「様子をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について理解する。 * P121上段を読み、次に「様子をあらわす言葉」にはどのようなものがあるか具体的にあげさせ、板書などを活用して整理していく。</p>	<p>【知識・技能】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p> <p>【態度】 ・積極的に、音や様子を表すことができるものがあることに気づき、学習の見通しをもって文の中で使おうとしている。</p>
			<p>2</p> <p>4. 濁音の有無によって、「音や様子をあらわす言葉」から受ける感じが異なることを理解する。 * P121上段の一つめの設問をクラス全体で考え、清音と濁音の違いによって受ける印象に違うものがあることに気づかせる。</p> <p>5. 単純形と反復形によって、「音や様子をあらわす言葉」から受ける感じが異なることを理解する。 * P121上段の二つめの設問をクラス全体で考え、単純形と反復形の違いによって受ける印象の違うものがあることに気づかせる。</p>			
			<p>3</p> <p>6. 音や様子を表す語彙を広げられるよう、P121下段の設問3を考える。 * 前時までに学習したことを生かして考える。</p> <p>7. 学習したことを振り返る。 * P121下段を読み、「音や様子をあらわす言葉」は、表現をより具体的でわかりやすいものにしてくれるものだとすることを理解させる。</p>			
3学期	2月	2	<p>漢字の広場⑥ 組み合わせせてできている漢字 教科書:P122</p> <p>△同じ部分をもつ漢字を集め、漢字を正しく使う。</p>	漢字	<p>1</p> <p>1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。</p> <p>2. 「明」という漢字の分け方を考え、漢字には、左右・上下・内外などに分けられるものがあることを確かめる。</p> <p>3. 漢字を組み合わせせてできる漢字を考え、話し合う。 * 「心」「田」をカードに書き、左右、上下、内外などに組み合わせ、考えるようにするとよい。</p> <p>4. 「心・田」などと同じような問題を作り、解答し合う。</p>	<p>【知識・技能】 ◎当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。(1)エ)</p> <p>【態度】 ・積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって、同じ部分をもつ漢字を正しく使おうとしている。</p>
			<p>2</p> <p>5. 熟語を手がかりに、「言」の部分をもつ漢字を探し、発表する。</p> <p>6. 「日」を部分にもつ漢字について確かめる。</p> <p>7. 「土」「田」など、同じ部分(構成要素)をもつ漢字を集めて問題を作り、発表する。 * 同じ部分をもつ漢字とそれを使った言葉を集めて交流することとおして、語彙の拡充につながるよう留意する。</p>			
3学期	2月	2 (書く2)	<p>一年生で学んだ漢字④ 教科書:P124</p> <p>△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p>	漢字	<p>3・4</p> <p>8. 絵の中の言葉の読み方を確認する。 * 絵に描かれたことと、言葉からわかる様子をたくさん発表できるようにする。</p> <p>9. 絵に描かれている様子から想像できる短文を作り、語と語の続き方に注意して文を書く。 * 語と語との続き方を考えて、まとまりのある一文となるようにする。</p> <p>10. 主語と述語のつながりに気をつけて、二文以上が続くように書き、発表し合う。 * 文と文の続き方に注意しながら、続きの文を書く。 例 赤いやねの家が町にあります。その家の前に青い色の車がとまっています。</p> <p>11. 学習したことを振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ)</p> <p>【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ)</p> <p>【態度】 ・積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書こうとしている。</p>

3学期	3月	16 (書く4)	ハ 何が、どのようにかわったかに気をつけて読み、お話をしようかしよう アレクサンダとぜんまいねずみ 教科書:P126 □何が、どうかかわったかに気をつけて読み、あらすじをまとめてお話を紹介する。 ★ここが大事:あらすじをまとめる ☆学習用語:登場人物、できごと、変化、あらすじ	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元の見通しをもつ。 * 単元扉を読み、単元の見通しをもたせる。 * 単元扉の教材名、言葉、挿絵からお話を想像させる。 * 単元末に、あらすじをまとめて紹介するために、物語を詳しく読むことを確認する。 * 難語句や特別な表現についての解説や、「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。 * 新出漢字の確認をする。	【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C1)オ ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C1)カ 【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ 【態度】 ・お話を自分の体験と結びつけながら読み、登場人物の行動や場面の様子に着目し、あらすじをまとめようとしている。
					2・3	<たしかめよう> 2. 登場人物とできごとの順序を確認する。 (1)登場人物や主なできごとを確認する。 (2)アレクサンダはP132・133とP136・137の場面で、それぞれどんな願いごとをしようとしていたかを考える。 * 場面ごとの登場人物の行動や、話した言葉を確認する。今までの学習のように表にまとめるのもよい。 * 登場人物の中で、はじめと終わりで変わった人物はいるか、変わった人物はどのように変わったのか、なぜ変わったのかを確認する。	
					4～11	<くわしくよもう> 3. アレクサンダが願いを変えた場面について詳しく読む。 (1)アレクサンダは、いつ自分の考えを変えたのか、話し合う。 (2)アレクサンダは、なぜ考えを変えたのか、話し合う。 * 「ほくは……」のあと、なぜ言いかけてやめたのかを考えさせる。 * 挿絵にふきだしを書き加えて、場面ごとの登場人物の気持ちも考えさせてもよい。 * 願いを変えた場面以外にも、アレクサンダの気持ちの変化につながる表現があることにも着目させる。	
					12・13	<まとめよう> 4. アレクサンダが願いを変えたことについて自分の考えを書く。 * 「くわしくよもう」で挿絵にふきだしを書き加えたものを見返したり、「たしかめよう」で確認したアレクサンダとウイリーの会話やできごとを振り返ったりし、自分の考えに理由をもたせる。	
					14・15	<つたえあおう> 5. あらすじと心に残った場面をまとめてお話を紹介する。 * 「たしかめよう」でまとめた、主なできごとを参照しながら、あらすじを紹介させる。 * P141下段の例を参考にしながら、どのような構成で書くかおさえさせる。 * ふくろうのふきだしを参考にさせる。「はじめ・中・おわり」については、P128・P136・P139の挿絵を用意しておくもよい。 * 同じお話でも、いろいろな感じ取り方があることに気づかせたい。	
					16	<ふりかえろう> 6. この単元で学んだことを振り返る。 (1)あらすじをまとめるときに気をつけることを振り返る。 * 「はじめ・中・おわり」を読み取り、お話で起きたできごとと、はじめと終わりで何が変わったのかをとらえることが大切なことを確認する。 (2)あらすじをまとめて紹介してみたいお話がないか振り返る。 * P143に掲載している本を紹介し、読み聞かせを行いながらあらすじを考えさせてもよい。	
3学期	3月	2 (話す聞く1・書く1)	ひろがることば これまで これから 教科書:P144 ■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。	書く	1・2	1. 一年間の国語科の授業で学んできたことを思い出してワークシートに書く。 * 上・下巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などを合わせて振り返ることができるようにする。 * 挿絵やふきだしを参考にさせる。 2. 学んできたことをグループや学級全体で共有する。 * 単元名や教材名だけでなく、印象的な言葉や活動など思い出す内容は多様でよい。 3. 2で出し合ったことをもとにして、三年生の国語で学びたいことを出し合う。 * 三年生になって「できるようになりたいこと」「やってみたいこと」「読んだり書いたりしてみたいこと」など、1で出たことに対応させているいろいろな観点で自由に出し合わせる。	【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A1)ア ○「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A1)エ ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア 【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動(A2)ア ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動(A2)イ 【態度】 ・すすんで経験したことから書くことを見つけ、今までの学習を生かして、思い出したことや三年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。